

女性が長く働き続けるということ

西村 美奈子¹、遠藤 佳代子¹、
小山 祐未²、坂野 りほ²、金谷 あかり²、中村 未来²

Survey on Women's Long Term Career Aspirations

Minako Nishimura, Kayoko Endo
Yumi Koyama, Riho Banno, Akari Kanaya, Miku Nakamura

【概要】

仕事や育児経験のある母親世代に仕事や家事などを通して感じた想いをアンケート調査し、女性が長く働き続けることについて分析を試みた。その結果、先輩女性たちも悩み、苦しみながら現在があり、それでも自分の望む働き方で今後も働きたいと思う女性が多いこと、仕事に自分の存在価値を見だし社会に貢献しているというやりがいがあることがわかった。さらに、家事や育児子育てについてはパートナーとよく相談していくことが充実度に繋がるなど、今後、社会に出る女子学生たちの将来の指針や方向性の選択、あるいは、今後の仕事と家庭の両立などのライフイベントを乗り越えるために必要なヒント、およびアドバイスを得ることができた。

1. 背景

総務省統計局によると共働き世帯は平成 27 年（2015 年）には全世帯の 64.6%と専業主婦世帯を上回り、女性が働くことが当たり前の時代になった。さらに、男女雇用機会均等法の施行から 36 年がたち、均等法一期生の女性たちがいよいよ定年を迎える。高齢化の進展でシニアの労働が推進される中、定年までだけでなく定年後も働き続ける女性たちも増えてきている一方で、現在の学生や若い女性には将来の選択肢が多くあり、それらは彼女たちを迷わせ、悩みの種となっている。

2. アンケート調査

2.1 目的

仕事や育児経験のある母親世代に仕事や家事などを通して感じた想いについて調査し、女子学生たちの将来の指針や方向性の選択、あるいは、今後の仕事と家庭の両立などのライフイベントを乗り越えるために、必要なヒントを得ることを目的とする。

¹ 昭和女子大学現代ビジネス研究所 研究員

² 昭和女子大学 学部生

2.2 アンケート実施概要

アンケート実施にあたっては、昭和女子大学の学生の友人を通じ、その母親たちにアンケートを依頼した。さらに、研究員の友人、知人や、現代ビジネス研究所の研究員にも回答への協力を依頼した。

- 調査対象：30代から60代までの女性（昭和女子大の学生の母親 他）
- 調査方法：WEB アンケート、未記名回答
- 調査期間：2020年11月半ば～11月末

年代		人数	比率
30代		1	1%
40代	前半	3	3%
	後半	38	33%
50代	前半	34	30%
	後半	27	23%
60代		12	10%
計		115	

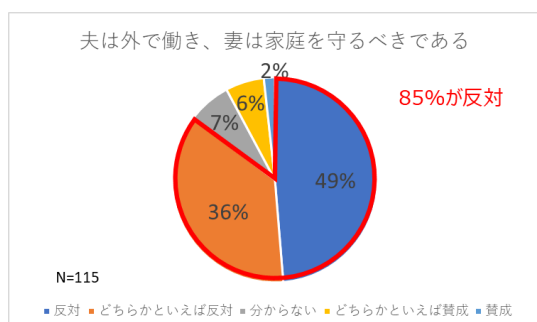
現状の働き方	人数	比率
フルタイム	73	64%
パートタイム	29	25%
専業主婦	13	11%
計	115	

図表 1：アンケート回答者属性

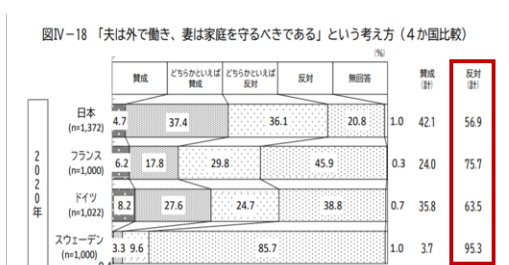
3. アンケート結果

3.1 性別役割分担意識

“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”という質問の調査は長年、日本で調査されている。本調査でもまずこの質問から入り、グループの傾向値を探った。本調査の母数 115 はこの意見に反対が 49%、どちらかといえば反対が 36%と、85%が男女の役割分担について反対を表明していた（図表 2）。内閣府が一昨年実施した同じ質問では、日本は 56.9%が反対およびどちらかといえば反対となっていたが、本調査ではこの数字よりもかなり高い結果であった。同時に調査したドイツは 63.5%、フランスは 75.5%、スウェーデンでは 95.3%と高い割合を示していた（図表 3）。



図表 2：性別役割分担意識（本調査）



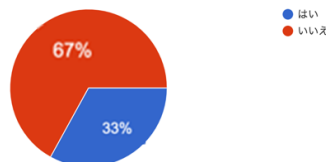
出典：令和 2 年 少子化社会に関する国際意識調査報告 内閣府 子供・子育て本部

図表 3：性別役割分担意識（国際比較）

3.2 家事分担

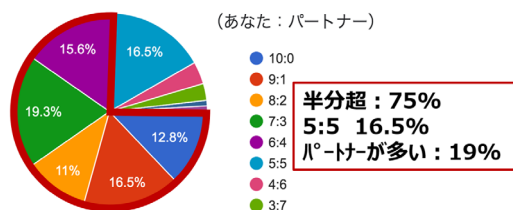
家事分担についてパートナーと事前に話し合っていたかの質問については 3 割の人しか話し合っていないかった (図表 4)。また、女性の家事分担が半分超は 75%、半々は 16% となっており (図表 5)、その結果、話し合いをしなかった分だけ、女性に家事の負担が大きくなる結果となっている。21 年の国際比較でも日本の男性は女性の 2 割以下という結果がでて、最下位である (図表 6)。

Q4. パートナーとは、結婚後の家事全般の分担について話し合いを行いましたか。
109 件の回答



図表 4：家事分担についての話し合い

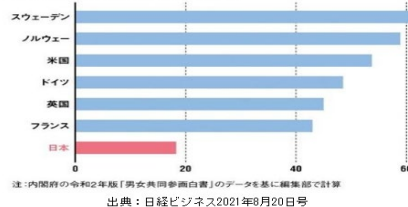
Q3. パートナーとの家事全般の分担の割合で最も近いのは以下のうちどれですか。
109 件の回答



図表 5：パートナーとの家事分担（本調査）

日本人男性は家事に協力しない

●妻を100とした場合の夫の家事・育児時間

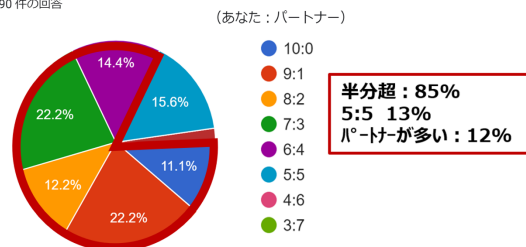


図表 6：家事分担（国際比較）

3.3 育児子育て分担

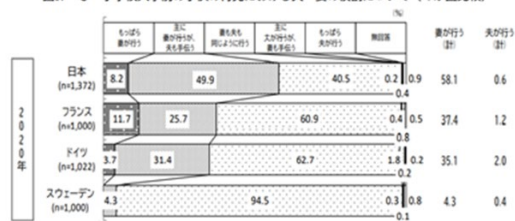
一方、育児子育てについては、女性が半分超を分担が 85% もいて、家事分担より多くなっていた (図表 7)。国際比較と比べると今回の母集団は日本平均より妻負担が多い。働いているという負目目で妻が必要以上に負担をしている可能性もある。国際比較ではスウェーデンがほぼ 95% 平等化されているものの、ドイツやフランスではまだ妻の負担が多い傾向がある (図表 8)。

Q6. パートナーとの育児子育ての分担で最も近いのは以下のうちどれですか。
90 件の回答



図表 7：育児子育て分担（本調査）

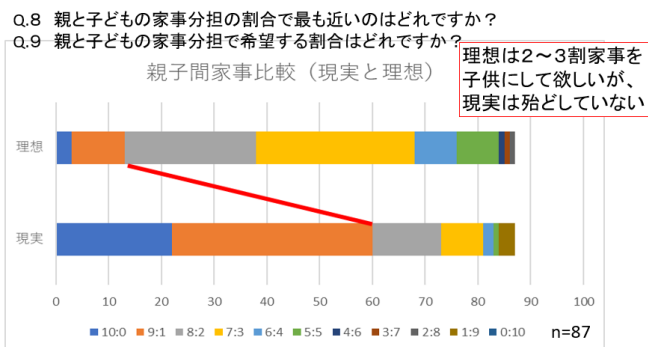
図IV-5 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について（4か国比較）



図表 8：育児子育て分担(国際比較)

3.4 親子間の家事分担

さらに、親子間の家事分担についても聞いた。今回の調査では女子学生の親たち世代をメインに聞いていることもあり、親の子供への家事参画の期待値は高いと思われる。が、実態は親が 9～10 割家事をしている（66%）。一方で子供に家事をして欲しい割合は 2～3 割以上が 79%と子供の自立を求めているのが窺える（図表 9）。

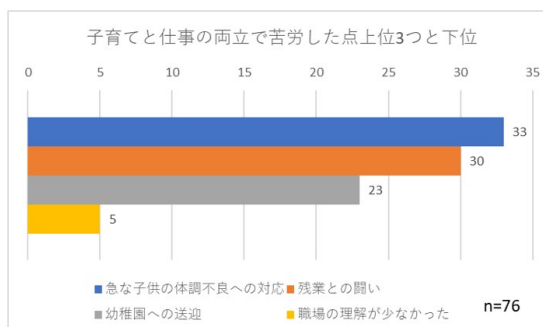


図表 9： 親子間の家事分担（現実と理想）

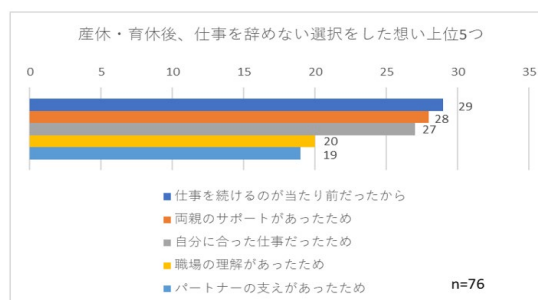
3.5 子育てと仕事の両立

ここではフルタイムで働く女性が子育てと仕事の両立をしていくためにどのようなことが必要なのか、「Q13.子育てと仕事の両立で苦勞した点を教えてください。（複数回答可）」と「Q14.産休・育休後、仕事を辞めない選択をしたのは、どのような考えや思いがあったからですか。（複数回答可）」という質問の答えから推測していく。

Q13 では急な子供の体調不良への対応、や残業との闘いという突発的なものに対して多くの人が苦勞を感じていると答えている。また、保育園や幼稚園への送迎という日常的な事へも苦勞を感じている人が多い。一方で職場の理解が少なかったと感じている人は少ない（図表 10）。さらに、Q14 では、仕事を続けるのが当たり前だったからという回答が一番多く、女性たちの間で「子供を出産した後も仕事を続ける」という考え方が定着してきたように感じた。ただ、両親のサポートよりもパートナーの支えのポイントが低く、未だに女性が子育ての大部分を行っているように感じた（図表 11）。



図表 10： 子育てと仕事の両立で苦勞した点



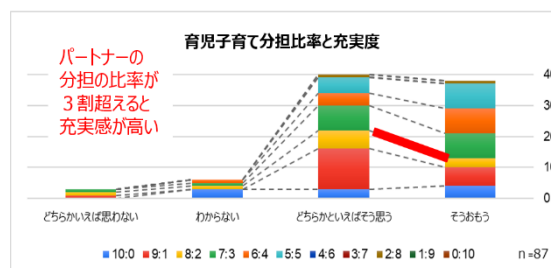
図表 11： 仕事を辞めない選択をした想い

以上 2 つの質問から、現状では多くの職場で理解が進んでいる一方で、パートナーとの連携がうまく取れずに苦勞している女性が多くいるのではないかと推測される。

一方、家事の分担に比べ育児子育ての分担は女性の比率が圧倒的に多くなる。しかし、「Q10 今の生活は充実していますか」を「そう思う」と回答した人のパートナーの育児子育て分担比率は 3 割以上が多く（図表 14）、これは、言い換えれば 3 割でも分担してくれれば充実度に繋がると言える。

さらに育児子育てについては、充実度に関係なく不満や諦めを感じていることもわかった。特に専業主婦は半分以上が諦めており、フルタイムで働いていても 4 割近くが諦めていたと回答している（図表 15）。

このことから、育児子育てについては家事と比較するとまだまだ女性の負担が大きいことがわかる。



図表 14：育児子育て分担比率と充実度

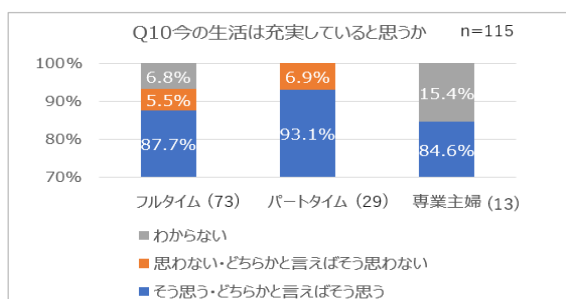
	Q7 育児子育ての分担についてどう思うか (n = 87)				
	満足していた	諦めていた	不満だった	その他	計
現在					
フルタイム	31%	37%	25%	6%	100%
パートタイム	42%	25%	25%	8%	100%
専業主婦	25%	50%	25%	0%	100%

図表 15：育児子育て分担比率と充実度

3.6.2 仕事と幸せ

「Q10 今の生活は充実していると思いますか」には、概ね、皆充実していると答えている（図表 16）。「そう思う」を選択した人の中で「Q11 これまでの働き方の中でどれが一番充実していますか」の回答をフルタイムと答えた現在パートタイムで働いている女性は「社会性を持ちたい」「人と関わりたい」「家族を大切にしたい」と理由をあげている。さらに、「自分の今までやりたかったこと」という回答も多かった。

仕事には社会性を持つという考えに加えて、今まで自分のやりたかったことを活かしてキャリアを築いている人は充実度が高いと考える。しかし、「わからない」「どちらかという」とそう思わない」と答えた人も同様の回答がある。



図表 16：今の生活は充実しているか

	Q11一番充実していた働き方 (n = 115)			
	フルタイム※	パートタイム	専業主婦	計
現在				
フルタイム	71	2		73
パートタイム	14	15		29
専業主婦	6	3	4	13

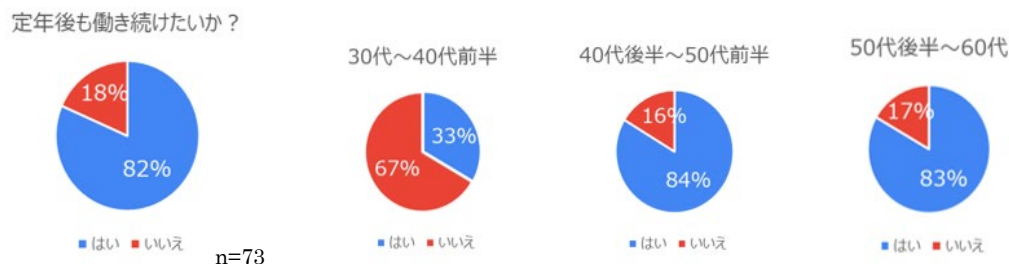
※フルタイムしかしたことがない人も含む

図表 17：一番充実していた働き方

3.7 働き続ける価値観

3.7.1 定年後も働き続けたいか

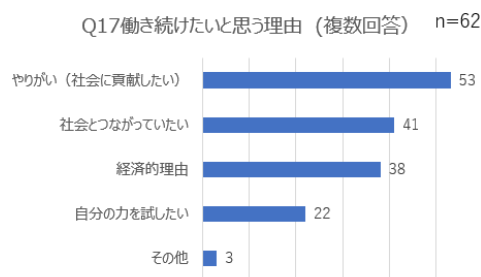
現在フルタイムで働いている人に「定年後も何らかの形で（自社に拘らず）働き続けたいか」と聞いた質問には、82%が働き続けたいと回答した。年代別にみると、30代～40代前半に比べ、年齢が上がるほど働きたいとの回答が高い（図表 18）。



図表 18：定年後も働き続けたいか

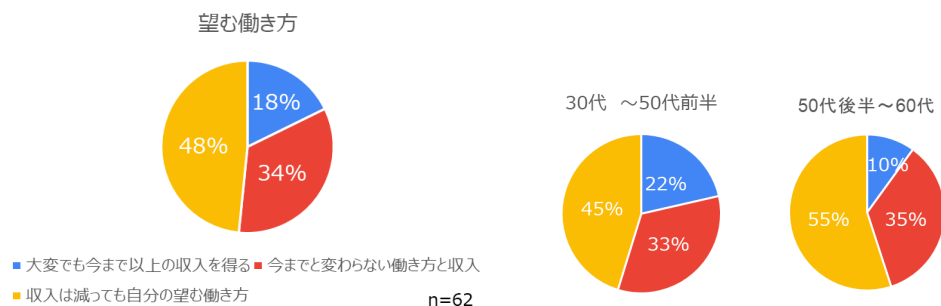
働き続けたい理由は、「やりがい」が最も多かった。次に「社会とつながっていたい」、「経済的理由」が続いた(図表 19)。ここから、現在フルタイムで働いている人で働き続けたいと考える人は、仕事に自分の存在価値を見出し、社会に貢献しているというやりがいが働き続ける原動力になっていると考えられる。

また、経済的理由も上位 2 と大差がなかったため、無視できない。子供の学費や老後の蓄えの面から経済的不安もそれなりに大きいと考えられる。上位 3 つの回答結果から働き続けたいと考える理由は、働き続けることで社会性を保て、自分が社会に役立っているという思いが生きがいに繋がっているのではないかと推測される。



図表 19：働き続けたいと思う理由

さらに、働き続けたいと回答した人に、望む働き方を聞いたところ、年齢が上がるほど「収入は減っても自分の望む働き方」をしたいという回答が多かった（図表 20）。これは、定年が近づくほど残りの人生を大事にしたいという思いが高まるからではないかと推測される。



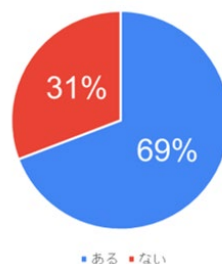
図表 20：定年後に望む働き方

3.7.2 専業主婦の働く価値観

では、現在、専業主婦の人は働くことについてどのような価値観をもっているのだろうか。

現在専業主婦の人に聞いた「働き続けたいと考えたことがあるか」という質問に対し、働き続けたいと考えたことが「ある」人は 69%であり、「ない」と答えた人は 31%であった(図表 21)。

働き続けたいと考えたことはありますか。 n=13



図表 21：働き続けたいと考えたことがあるか

上記の回答を選んだ理由は、以下のようになった(図表 22)。 n=11

働き続けたいと考えたことがある	働き続けたいと考えたことがない
・社会との繋がりを保つため、また自分ができる範囲でこれまでに得たスキル等を社会に還元するため。↓ ・社会生活において仕事をすることの意義は大変大きいと思うから。↓ ・経済、社会のとの繋がり↓ ・自身のスキルアップ、教養が身に付けられると思うから↓ ・個人の収入がある、という安心感が得られるため	・外で働きたいと思うが家事も疎かにしたくないので、働き続けることは難しいと思う。↓ ・子育てに専念したかったから。↓

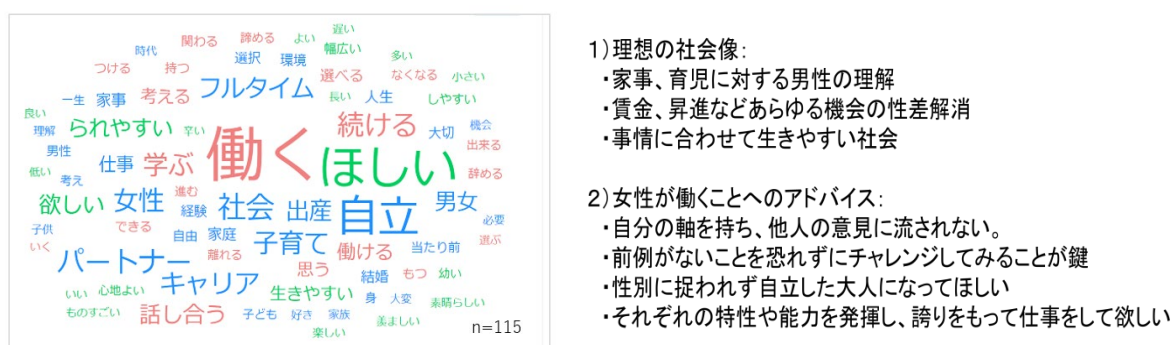
図表 22：働き続けたいと考えた・考えない理由

働き続けたいと考えたことがある人は、社会とつながっていたい、社会の中での自分の存在価値を高めたい、というものが多く、他には自身の成長、経済的安心感、が挙げた。ここから働き続けたいと考えたことがある人は、社会性と経済的理由に分けられると考えた。また、働き続けようと考えたことがなかった人は、家事を疎かにしたくないという思いや子育てに専念したかったという考えがあることが分かった。

家事・育児を大切にしたいから働きたいと考えたことがない人もいるが、専業主婦になった人の中にも働きたいと考えた人が一定数いることがわかり、専業主婦に望んでなかったというよりは、仕事と育児の両立が難しい状況にあったからという理由をもつ人が少なからずいると推測される。但し、今回のこの結果は回答者数が少なかったもので、今後もっと回答者数を増やして調査する必要がある。

3.8 母親世代が次世代に望む男女平等社会とは

母親世代の考える“女性にとっての理想の社会像”を調査しようと「Q34 女性が働くということについて、女子学生の世代にはどのようなようになって欲しいとお考えですか？もしくは女子学生の世代に伝えたいことありますか？」という質問を投げかけたところ、現在の女子学生への貴重なアドバイスを頂いた(図表 23)。



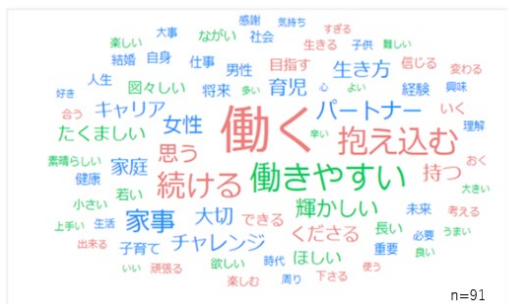
図表 23：母親世代が次世代に望む男女平等社会

「女性が働くこと」に何年も向き合ってきた結果のこれらのアドバイスは、女子学生に深く響くと考えられる。特に、女性は結婚や出産などのライフイベントによりキャリアが左右されることがあるため女子学生たちも不安を感じていたが、これらをネガティブに捉えず、自分の人生を大切に、その都度自分にとって何がベストなのか考えて行動することが大切なのだと気づかされた。回答に多く見られたキーワードとして、自信、誇りを持つこと、自立すること、性別に関係なく好きなこと、やりたいことをする、生き生きと輝いてほしいなど、前向きなコメントが多く見られた。

3.9 母親世代が次世代に伝える働く心構え

さらに、「Q36 女性が働き続ける為に、コツやヒント、心構え等もし宜しければ女子学生に応援メッセージをお願いします。」にも多くの応援メッセージをいただいた(図表 24)。

これらの回答は、将来に対して不安を抱える女子学生に対して社会に出てから自分を見失わずに生き続ける鍵になるだろう。女性が社会で生きていく上での多くのヒントを回答から得られた。



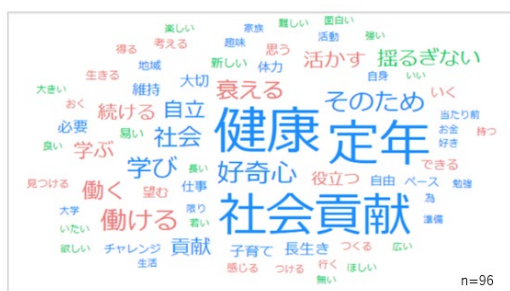
- ・自身の身体をまずは大切にすること
- ・家事はパートナーと協力して行い無理は絶対にしないこと、
- ・一人で抱え込まず周りに助けを求められるような関係の構築をすること、
- ・計画通りにいかないことも多くあるけれど焦らず軸を持って前向きに考えること、
- ・しなやかに、柔軟に生きることがコツである

図表 24：母親世代が次世代に伝える働く心構え

また、パートナー選びについてのコメントも多く見られた。働き続ける上でパートナーとの家事分担は必須だ。いかに多くコミュニケーションを取りお互い無理せずに家事を行うかが大切か回答から学ぶことができた。パートナー選びに関しては、経済力などではなく、人生や仕事に対する価値観を理解し尊重する人を選ぶといいという回答がいくつも見られた。男女平等社会の実現に向けて、結婚観の固定概念や先入観も見直さなければならぬと改めて実感した。

3.10 人生 100 年について

最後に、人生 100 年時代、自身はこれからどのように歩んでいきたいと思っているのか、そのために必要なことは何かを聞いた。回答で一番多かった言葉は“健康”。更に、多岐にわたる思いがあり、まとめるのが難しい状況だった。データマイニングからは、健康以外は社会貢献、定年、好奇心、学び、自立、働ける、続ける、活かすなどの言葉が、出現していた(図表 25)。



図表 25：人生 100 年時代の望み歩み方

4. 最後に

学生たちは皆、就職に対して様々な悩みを持っている。社会人になること、仕事をする
こと、女性としてライフイベントにどのように向き合っていくべきか、疑問、不安を質問に落
としていく中で先輩女性たちから話を聞いたことは有意義であった。先輩女性たちも悩み、
苦しみながら現在があることを知り、暖かいエールを頂いて勇気づけられた。願わくば多く
の女子学生に読んで頂きたいと思う。

最後に調査に協力いただいたお母様方を始めとする回答者の皆様には、この場を借りてお礼を申し上げます。以上